



(仮称)まちづくり協議会の設立に向けて

～未来に向かって、元気なまちづくり活動が続けていくために～

富士市では、平成26年度を目標に、市内26地区のまちづくり推進会議(会)を、新たな組織「(仮称)まちづくり協議会」に移行していくことを提案しています。

今のまちづくり活動は活発、このままで大丈夫じゃない？



活発な活動が行われている今のうちに
地区の将来に向けてじっくり考えてみませんか？



富士市のまちづくり活動は、町内会・区への高い加入率を背景にして、まちづくり推進会議(会)や、生涯学習推進会といった団体を中心に、活発に続けられています。

しかし、人口減少・少子高齢社会の到来、ライフスタイルの多様化といった様々な社会背景が、今活発に行われている地域コミュニティの活動にも影響することが心配されています。

本市が進める「地域の力こぶ増進計画」は、わが国が抱える社会課題を解決できるようなものではありません。しかし、少なくとも地域コミュニティが、現在の社会背景の影響や、今後発生するかもしれない新たな課題に直面したりしても、「今と変わらない元気なまちづくり活動」が続けられるように、元気な今だからこそ、地域と行政が一緒に取り組んでいくことが重要と考え、様々な取組を提案させていただきました。

この取組の柱となるのが、今ある「まちづくり推進会議(会)」をさらに進化させ、地域の皆さんによる、地域の皆さんのための新たなまちづくり組織「(仮称)まちづくり協議会」の設立になります。

「（仮称）まちづくり協議会で何をを目指すの？」



「タテ割り」へ、「ヨコ」につながる場（部会制）を加えて、「みんながつながる」強い地域づくりを進めませんか？



これまで地区と行政は、目的別に補助金が交付されるなど、「タテ割り」の関係でつながってきました。「タテ割り」は専門性を活かして取り組んだり、一つの目的に重点的に取り組んだりする際には有効なため、行政の所管課に合わせ、地区の中にも目的別、事業別に様々な団体や推進委員などの役割ができ、タテ割りの活動が行われてきました。

しかしながら一方では、それぞれの団体が、お互いの活動内容を知らなかったり、同じ目的の事業をそれぞれの団体個別に行っているような、「タテ割り」の弊害も見受けられるようになってきました。

「（仮称）まちづくり協議会」では、こうした「タテ割り」の弊害を解消して、地区で活動する団体や推進委員などの横断的な連携・協力体制を築くために「部会制」を導入することを提案しています。

今ある「タテ割り」の利点に部会制による「ヨコ」のつながりを加えて、より強い地域コミュニティづくりにつなげていきたいと考えています。

小さな連携から
大きな連携へ！

連携！



連携！



連携！

「（仮称）まちづくり協議会」ってどんなイメージなの？



詳しくは次ページへ

「(仮称)まちづくり協議会」へ バージョンアップ!

今の「まちづくり推進会議(会)」を、
「(仮称)まちづくり協議会」へバージョンアップしましょう!

「(仮称)まちづくり協議会」には、地区のことを「みんなで決める」総務企画部門と、地区のために「みんなで動く」活動実行部門を設けています。



バージョンアップ!!

**ヨコのつながりを強める
「部会制」の導入へ!!**

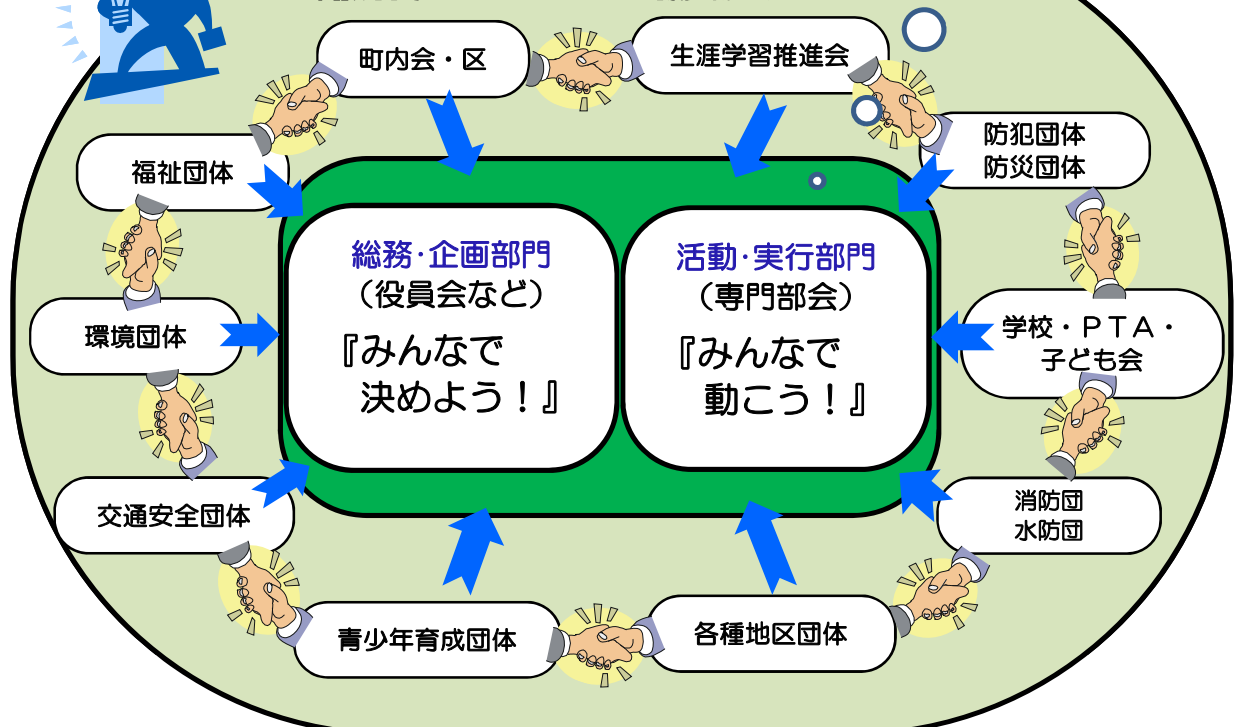
今ある団体の統廃合でなく、 団体同士の連携の場を(部会制)!

「(仮称)まちづくり協議会」には、団体と団体の連携や協力を促すために、「部会制」を導入することを提案しています。

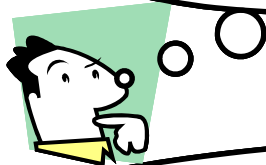
これにより、地区内の人と人のつながりの輪を更に広げ、より強い地域コミュニティづくりを目指します。



(仮称) まちづくり協議会のイメージ



でも、「総務・企画部門」や「活動・実行部門」って、何かむずかしそうだな？



まちづくりのキーワードは、
『参加』と『協働』といわれています。



地域コミュニティの活動には、「参加」と「協働」の場が大事といわれています。

「参加」とは、その地区に住む多くの皆さんが参加し、民主的な話し合いの中で地区のものを決めていく場、「協働」とは、多くの団体、多くの住民の皆さんがそれぞれの長所を活かして、連携や協力して物事を進める場とされています。

この2つの場が、うまく機能し、お互いを支えあい刺激しあうことで、元気な地域コミュニティ活動が続いていきます。

前ページで示した「（仮称）まちづくり協議会」では、「総務・企画部門」が「参加」の場、「活動・実行部門」が「協働」の場ということになります。

この「みんなで決めよう!」、「みんなで動こう!」という仕組みは、活発なまちづくり活動が行われている富士市では、すでに出来ている地区も見られますが、今回、地区の皆さんと「（仮称）まちづくり協議会」の設立に取り組んでいくにあたり、わかりやすいように「見える化」しました。

このイメージを参考に、地区の特徴や抱える課題などをじっくり見つめなおして、ぜひ皆さんの地区にあった「まちづくりのかたち」を考えていきましょう。

それぞれの部門や部会にはどんな人たちが入るのかな？



詳しくは次ページへ



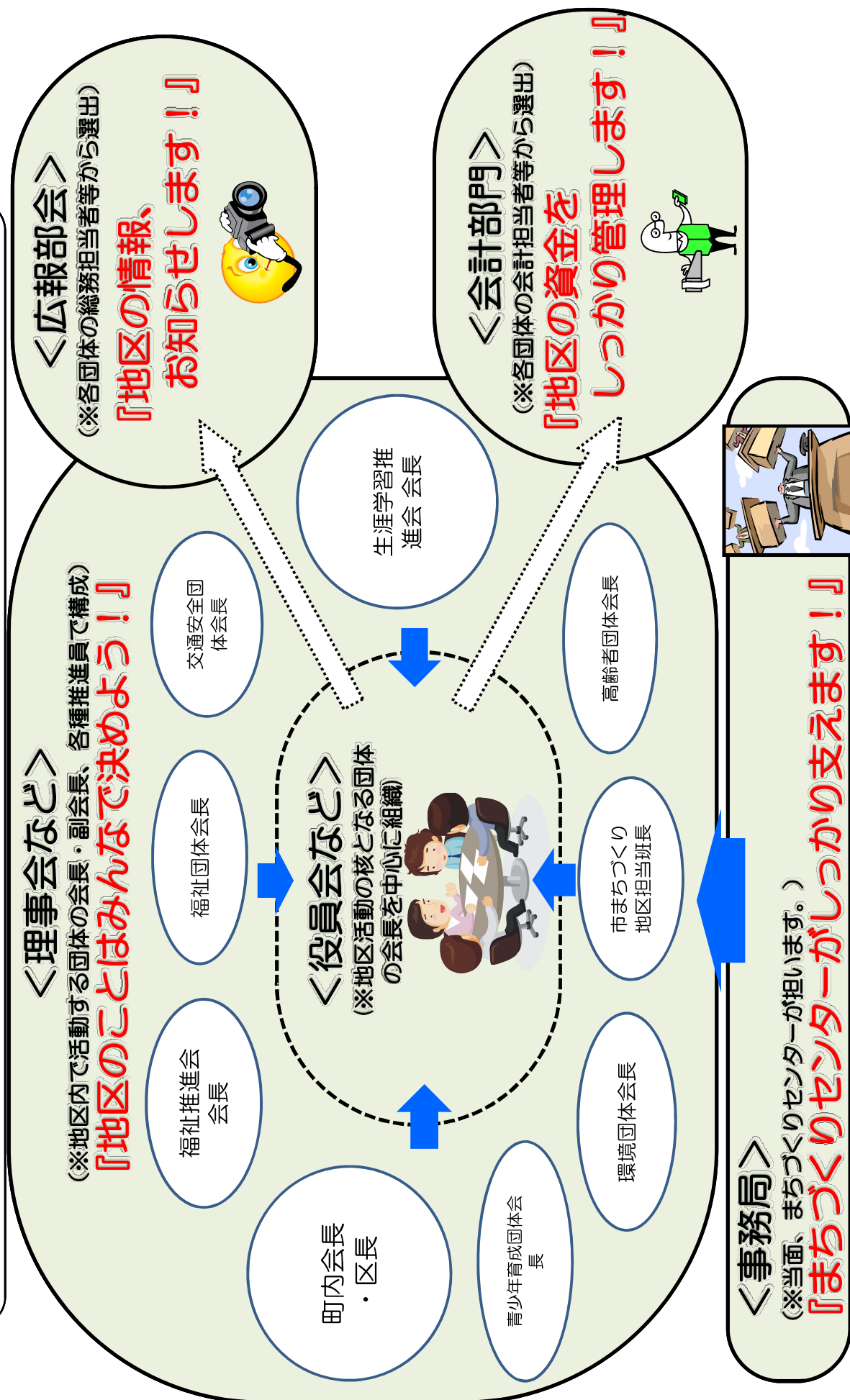
下に示したのが、（仮称）まちづくり協議会の「**総務・企画部門**」のイメージ図です。

「総務企画部門」には、地区で活動するすべての団体の代表や推進委員等が参加し、「みんなでものごとを決める場」として、「理事会」や「役員会」を設けることを提案しています。また、会議で決まったことや、地区内の様々な活動などの情報を地区の皆さんに周知する「広報部会」と、まちづくり協議会の資金をしっかりと管理する「会計部門」を設けることで、より透明性の高い活動につながっていくものと考えます。事務局は、当面の間、まちづくりセンターが担い、地区の皆さんの活動をしっかりとサポートします。

活動実行部門

は

次ページへ





下に示したのが、(仮称) まちづくり協議会の「活動・実行部門」のイメージ図です。

「活動・実行部門」では、地区の実情や抱える課題に応じて、目的別の部会を設けることを提案しています。それぞれの部会には、これまで個別に活動してきた団体が参画し、情報を交換したり、連携・協力関係を強めることにより、より効果的な活動につながっていくものと考えます。例えば、部会の中で、同じ目的の事業を一緒に取り組むことで、事業や資金のスリム化が図られたり、複数の団体が協力することによりスケジュールメリットを活かした事業を行うなどといったことが考えられます。

参考スケジュール
はあるの？

＜各種専門部会＞

(※地区の課題を解決するために設けられた部会により構成)

『地区のために、みんなで動こう!』

＜安全部会＞

『安全・安心なまちにしたいよね!』

＜防災部会＞

『有事の備えは万全にしよう!』

＜環境部会＞

『住み良い環境を作ろう!』

地区のみんなが幸せを感じるまちをつくるには何が必要かな?

＜福祉部会＞

『福祉の充実、大事なことだね!』

＜体育保健部会＞

『健康第一! 元気なまちにしたい!』

＜文化教育部会＞

『地区の歴史や文化伝統を大事にしよう!』

＜こども部会＞

『地区の子どもたちは地区で育てよう!』

例えば・・・

- ・自主防災会・地域防災指導員
 - ・生涯学習推進会(安全教育部)
 - ・交通安全協会地区支部
 - ・地域安全推進委員
- といった皆さんと一緒に考えてみませんか?

例えば・・・

- ・生涯学習推進会(青少年育成部)
 - ・小中学校PTA
 - ・子ども世話人連絡協議会
 - ・青少年指導員
 - ・放課後児童クラブ運営委員会
- といった皆さんと一緒に考えてみませんか?

例えば・・・

- ・生涯学習推進会(成人教育部)
 - ・男女共同参画地区推進員
 - ・女性団体
- といった皆さんと一緒に考えてみませんか?

例えば・・・

- ・生涯学習推進会(体育保健部)
 - ・スポーツ推進委員
 - ・健康推進員
- といった皆さんと一緒に考えてみませんか?

例えば・・・

- ・地区福祉推進会
 - ・民生委員・児童委員
 - ・悠容クラブ
- といった皆さんと一緒に考えてみませんか?

例えば・・・

- ・環境衛生自治推進協会
 - ・公園愛護会
 - ・ごみマイスター
 - ・緑化指導員・花の会
- といった皆さんと一緒に考えてみませんか?



部会同士の連携も大切だね!

でも実際、何から取組めばいいのかわからないなぁ？



まずは、地区の実情や抱える課題について、話し合うことから始めることをおすすめします。

下に示した、「今後の『地域の力こぶ増進計画』の展開(案)」の中の3つの段階で、「地区の皆さんで取組んでいただく事」について示しましたので、参考にしてください。

地区の皆さんの話し合いの中から、地区の課題を自ら解決することのできる、地区の皆さんにとって本当に必要な「まちづくりのかたち」が導き出されていくと思います。



今後の『地域の力こぶ増進計画』の展開(案)

H24

①

計画周知段階

地区の皆さんで
取組んでいただく事

市の支援

『地域の力こぶ増進計画』の地区説明会（H24.6～8実施済み）

まちづくりシンポジウム開催（H24.9.21）
基調講演・先進事例紹介・パネルディスカッション

H25

②

組織検討・準備段階

「まずはみんなで話し合うことから始めよう！」

●検討会議の開催

- ・地区の現状、課題等について情報共有と整理
- ・市のモデル案を参考に、地区に必要な地域コミュニティ組織のあり方を話し合う。
- ・地域課題を解決するための事業の企画・実施

☆話し合いの手法のメニュー例

- ・円卓会議(みんなで話す井戸端会議)
- ・ワークショップ(テーマ別に意見を出し合おう)

など

●組織体制の検討

- ・地区にあった部門構成、部会構成の検討など

●規約等の検討

- ・規約モデル案を参考に検討

会議運営のサポート

- ・会議資料の準備
- ・課題シートの提供
- ・必要機材の貸出
- ・先進例の紹介
- ・モデル案の提示
- ・規約案の提示



H26

③

始動段階

- 『〇〇地区まちづくり協議会』設立総会（26.4～）

●『〇〇地区まちづくり協議会』として活動開始

- ・地区別行動計画の策定

☆話し合いの手法のメニュー例

- ・まちあるき(現場を歩いて地区を知ろう)
- ・地域デザインコンテスト(地区の将来像を考えよう)
- ・地域カルテの作成(地区の課題を数字で診断)

地区別行動計画に向けた取組のための財政支援を検討

まちづくりの課・まちづくりセンターによる継続的なサポート

「みんなで創る新しいまちづくり組織」設立に向けてキックオフ!! ～地区の実情にあった組織設立への道筋(案)～

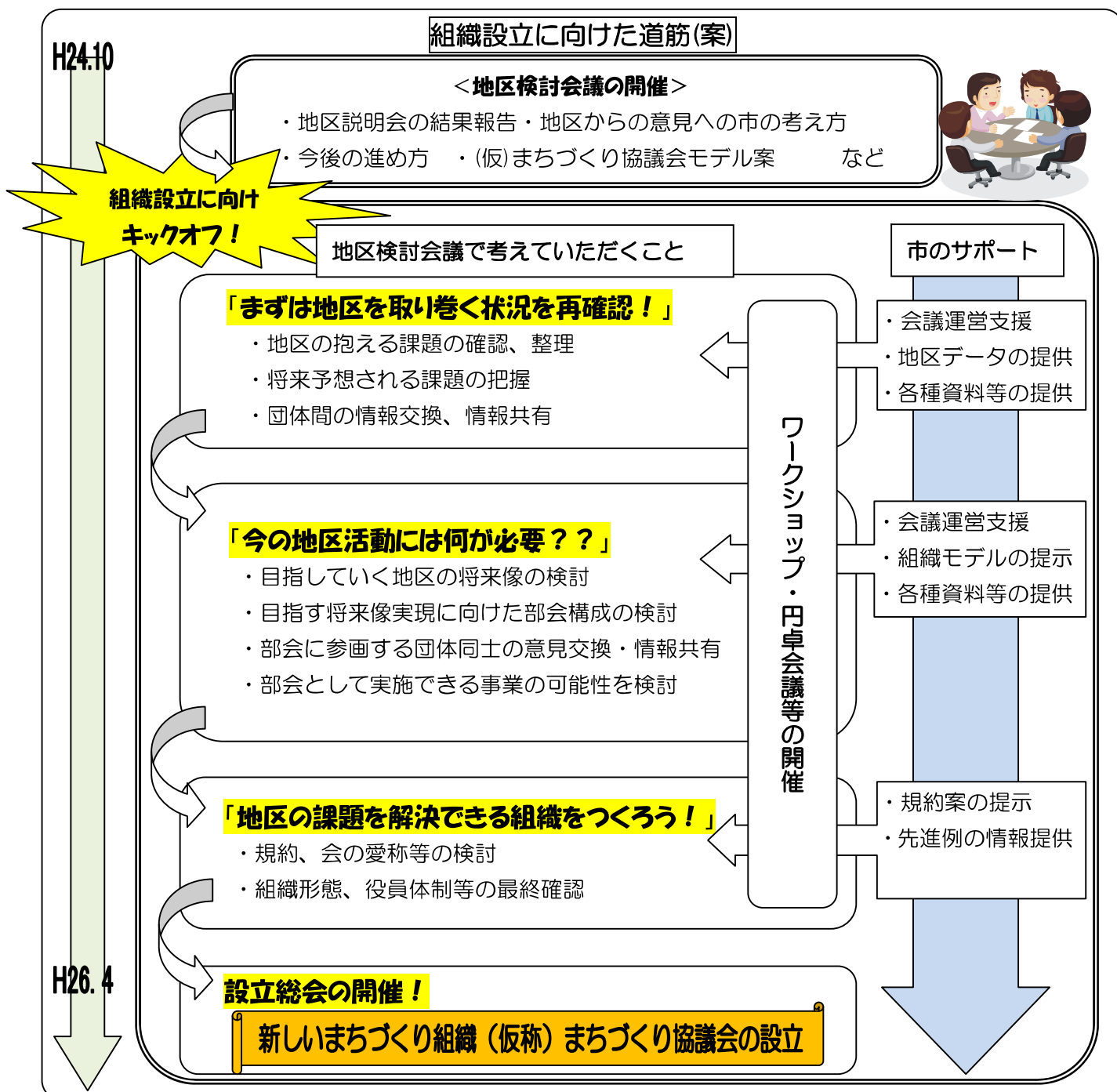
〇はじめに

「地域の力こぶ増進計画～富士市まちづくり活動推進計画～」の目指す大きな方向性として、「社会情勢の変化に柔軟に対応できる、足腰の強い、将来に向かって持続可能な地域コミュニティづくり」を示させていただきましたが、それぞれの地区が抱える課題や将来直面するような課題は、地区によって様々です。

今後、地区の皆様が主体となって、「地区でどんなことが課題になっているのか?」、「地区の将来に向けてどんなことが必要か?」などといったことを話し合ってください、地区の実情にあった新しいまちづくり組織「(仮称)まちづくり協議会」の設立に向けて、具体的に考えていただくことが必要になります。

〇組織設立に向けた道筋(案)の提案

「新しい組織」を地区の皆様が主体となって創りあげるということは、とても大切なことです。このため、組織設立に向けた取組の進め方の参考となるように、下図に「組織設立に向けた道筋(案)」を示させていただきます。



いきなり話し合うといっても、どんな風に進めればいいのか？



話し合いを進めるにあたって、下に示したような手法を使ってみてはいかがでしょうか？

こうした取組に多くの皆さんが参加していただくことで、地区の実情や抱える課題、これからの地区に必要なこと等について、みんなで考え、地区を見つめ直す「きっかけ」になるとと思います。



「みんなで話し合い」を進める手法メニュー一例

「まちづくりのかたち」を考えてみよう！

＜円卓会議＞

地区に住むあらゆる立場、あらゆる年代の皆さんが気軽に参加して話し合う場です。まさに「井戸端会議」のようなイメージです。

このような場で、地区の現状や課題、団体の活動などを気兼ねなく話しあうことで、本音の意見が出されたり、お互いの情報が共有されて、地区のことが「身近」になります。



＜ワークショップ＞

参加者が小グループに分かれて、意見を出し合い、グループの意見をまとめていく会議です。例えば、一つのテーマについて、それぞれの参加者が自分の意見を「ふせん紙」に書き溜めて、自分の考えを説明しながら、模造紙に貼っていきます。出された意見を分類して、グループごとの話し合いの結果を他の参加者に発表します。



「地区の将来像」を考えてみよう！

これらの手法を組み合わせても使えます！

＜地域デザインコンテスト＞

「将来こんなまちにしていきたい」ということをテーマに、地区の中で幾つかの検討グループをつくり、それぞれのグループが考え出した提案について、地区の皆さんが票を入れるというコンテスト。

未来を担う小学生や中学生といった子どもたちや、地区の若い世代に参加してもらうことで、新しい視点からの提案も期待できますし、住んでいる地区への愛着が増すことにもつながります。



＜まちあるき＞

普段何気なく暮らしているまちについて、住民の皆さんそれぞれに感じる課題や、気に入った場所などがあると思います。

「まちあるき」では、そういった場所を地区の皆さんで実際に見てまわることで、新たな発見や課題解決につなげていきます。最近では特に防災・防犯面から有効といわれています。



＜地域カルテの作成＞

地区の過去と現在がわかるような様々な情報を、データや写真、地図などで整理します。

人では「医療カルテ」を作って治療を施すように、「地区」にもカルテを作って、地区の抱える現状や問題点を洗い出しやすくします。このカルテを地区の皆さんで共有することで、課題解決や新たな活動につなげていくことができます。



地区の皆さんによる話し合いの中から出された意見や提案をヒントに、それぞれの地区にあった「まちづくりのかたち」や「地区の将来像」について考えていきましょう！